

平成 22 年 4 月 5 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2011

課題番号：19520351

研究課題名（和文）中国西南部の民族文字の字形集合に関する情報理論的研究

研究課題名（英文）A Study on the Script Sets of Minority Peoples in Southwestern China

研究代表者

鹿島 英一（KASHIMA EIICHI）

九州大学・留学生センター・教授

研究者番号：20253700

研究代表者の専門分野：文字学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：中国語学、中国の民族文字論

1. 研究計画の概要

(1)本研究の目的は中国西南部の雲貴高原やその周辺に分布する非漢字系の象形文字や固有の音節文字を対象に、情報理論的解析を試みて、定量的な面からその特徴を把握することである。具体的には、納西象形(東巴)文字、納西表音(哥巴)文字、規範彝文、水文字、僂僂音節文字などを主対象にする。(清朝崩壊前後の一世紀間に無知と政策によって葬り去られようとした)これらと漢字圏の間にかつて交流があったことは確かなようだが、明らかに異なる文字圏を構成しているからである。

(2)具体的には、研究代表者が(曾て音標文字で開発し)日中韓の常用漢字で確立した方法論(文字単位集合を抽出して、その(幾何的)対称類型の分布、各文字をなす文字単位数の分布、などを指標とする)を基本的に用いておこなおうとするものである。

2. 研究の進捗状況

(1)雲貴高原周辺の地理的状況・歴史的事情や中国政府の民族文字政策のために、文字資料の確認と入手が容易とは言い難く、また予測困難という基本的な問題点がある。大抵は(文革後の)1980年代以降に研究が途ついたというのが現実だからである。

(2)本研究に必要な範囲での文字資料は概ね入手できたが、哥巴文字などはまだ充分ではない。進捗状況は当初の想定範囲内に収まっており、結果的には順調と言える。

3. 現在までの達成度

(1)当初の計画どおりに進展している。

初年度に規範彝文、次年度に東巴文字、また三年目は水文字について、文字集合の解析を行った。また、2年目には漢字以外の文字との対比データを取るために、文字数の近い女真文字(北方系で未だ解読の途中)の同様な解析も行った。従って、現在までの達成度は全体計画の7、8割と言える。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度は僂僂音節文字を主対象にして、同様の解析を行い、既に終わった文字の分析結果と比較しながら、結論を出す予定である。その際、曾て結果を得た漢字に加えて、他の文字(女真文字など)の結果も利用できる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

鹿島英一「規範彝文の集合論」『東北大学言語学論集』第16号、pp.43-68.2007年

鹿島英一「納西東巴文字の集合論」『東北大学言語学論集』第17号、pp.39-68.2008年

鹿島英一「女真文字の集合論」『地域文化研究』第7号、pp.45-98.2009年

鹿島英一「水書の集合論」『東北大学言語学論集』第18号、pp.21-44.2009年